科目名 機械工作法 I(Manufacturing Process I)										
学 年	学 科(=	1ース)	単	位 数	必修 / 造	選択	受業形態	開講時	寺期 総	時間数
第2学年	機械工	学科	履修	1 単位	必修		講義	後其	明 3	0 時間
担当教員	l	【常勤】教	授 後藤	実		4		•		
	1 I AIA 1 - 1 - 1 - 1 - 1			学習到						
機械工作法は加工素材を固体として扱い、大別すると(I)材料非除去加工と(I)材料除去加工に分類できる。2学年では、(I)材料非除去加工のうち、鋳造法と塑性加工の基礎および鍛造加工について理解することを目的とする。到達目標レベルは、1)鋳造加工技術に関する基礎的事項を理解できるこをした。2)塑性加工法の概要を理解できること、および3)鍛造加工技術の基礎的事項を理解できることである。										
到達目標 (評価項目)	優れた	:到達レベル 目安	·0]	良好な到達し 目安		最低限0)到達レベル 目安	ルの	未到達レイ 目安	
到達目標	専門用語 び得失を 製品や目	理解した上 的に合わせ 鋳造方案が	およ 専 で、 び tた 製	造加工技術(門用語やプロ 得失を理解し 品や目的にで 造法の選択が	コセスおよ した上で、 合わせた	基礎的な	技術に関す専門用語やよび得失を	⁵ プ 基礎 理解 ロセ	告加工技術(楚的な専門) zスおよび得 fない。	こ関する 用語やプ
到達目標②	失および 解に加え 合った塑 択とその	法の概要と 専門用語の 、製品や目 性加工法の 加工条件の なこができる)理 的に 解し 選 合 ・ 法 訳	性加工法のれ および専門月 こ加え、製品 った塑性加コ ができる。	用語の理 占や目的に	失および	法の概要と 基礎的な専 解できる。	門 失ま	生加工法のないまでは および基礎的 音を理解でき	りな専門
到達目標	得失およ 理解に加に合った	鍛造法の選 的な条件部	iの 得 目的 理が 定と に	造加工技術の 失および専門 解に加え、製 合った鍛造法 る。	門用語の N品や目的	得失およ	技術の概 び基礎的な 理解できる	専 得男	告加工技術の 大および基礎 用語を理解 ^っ	壁的な専
学習•教育到達目	標	((C)	J	JABEE基準	1 (2)				
			;	達成度	評 価 (9	6)				
評価方指標と評価割合	法	中間試験	期末・ 学年末 試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40	40		20					100
知識の基本的な理解しています。		0	0		0					
思考・推論・創造へ 適用力 【適用、分析レベル】		0	0		0					
汎用的技能 【 】										
態度・志向性(人間)	力)									
総合的な学習経験。 創造的思考力 【 】	٢									

関連科目、教科書および補助教材					
関連科目	工作電子実習 I、設計製図CAD I				
教科書	機械工作法 I (朝倉健二・橋本文雄・共立出版)				
補助教材等	機械工作法 I (米津栄・朝倉出版)				

学習上の留意点

授業を受ける前にシラバスで講義内容を確認し、教科書の該当する箇所を予め予習しておくこと。

ノートにはルーズリーフではなくA4の大学ノートを使用し、ページの中心に縦線を引いて左半分を予習ノートとして使用し、右半分を板書および予習用として使用するとよい。

授業中は板書に集中するのではなく、なぜそのような工法や材料を用いるのか自分の頭で考えること。

授業中に生じた疑問点はその時間のうちに質問し、解決すること。

また、講義を受けた後の復習は教科書だけではなく、参考書等も用いること。

不明な点は教科担当に積極的に質問すること。

担当教員からのメッセージ

専門科目の単位取得には予習・復習が絶対に必要になるので、この機械工作法 I で専門科目の学習のやり方を十分に身に着けてほしい。機械工作法 I はこれから機械工学科で学習する専門科目の最初の科目になり、これまで学習してきた数学や英語とは異なる全く新しい専門用語や考え方が出てきます。専門科目を学習する上での第一歩は、その分野の専門用語の意味をしっかり理解することが大切です。 講義の中心となる鋳造技術は、古代から銅剣や銅鐸あるいは仏像などの製造技術として用いられてきたものです。基本的なアイデアは昔も今も変わらないものの、技術の進歩に従ってより高度な加工技術として確立されてきました。講義の中では鋳造加工の各プロセスにおいて現在に至るまでの技術の歴史に触れながら"なぜその材料?その方法?"の疑問に答えていきます。

また、これから増えていく専門科目を学習するうえで共通する重要な事柄についても折に触れて解説していきます。

授	業	の	明	細
132	未	v	בעיי	жШ

	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	鋳造の概要	法の位置付けと概要について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
2	模型の作成	成に必要な模型の種類と材料、および、模型作成の要点を理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
3	砂型に必要な性質と分類	できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
4	砂型材料	鋳物砂の構成、性質、粘結剤、添加剤、配合、調整 および管理について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
5	鋳型の構造と鋳造法案	砂型の構造と各部の役割および鋳造法案について 理解できる。	の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
6	造型作業	業について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
7	溶解炉	溶解炉の種類と分類法および長所・短所について 理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
8	中間試験	60点以上	ノート、教科書、参考書を 十分に復習すること。
9	鋳造金属の溶解と鋳鉄の組織	鋳鉄および鋳物用非鉄合金の溶解と、鋳鉄組織に ついて理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
10	鋳込みと後処理	鋳込み作業の流れと注意事項、鋳込み後の処理 について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
11	精密鋳造法	シェルモールド法、ロストワックス法、CO2プロセス、ショープロセス、フルモールド法の長所・短所と応用例について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
12	特殊鋳込み法	ダイカスト法、低圧鋳造、遠心鋳造の長所・短所と 応用例について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
13	塑性加工の概要	金属の塑性変形と加工硬化を応力ひずみ線図に よって説明でき、塑性加工の特徴および塑性加工 法の分類について理解できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
14	鍛造加工	鍛造加工の概要と鍛造加工の形式について理解 できる。	授業を受ける前に教科書 の該当箇所を読んで概要 を把握しておく。また、不 明な点は質問する。
		ノート、教科書、参考書を 十分に復習すること。	
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業改善アンケートの実施	試験問題の解説を通じて間違った箇所の正解を理解できる。	
	総 授	30 時間	